SHIP 通信

県立麻生支援学校
支援連携グループ
No. 3
令和６年３月 発行

教育相談・地域支援担当から

教育相談

今年度も校内や地域の方からさまざまな御相談があり、時には関係機関と連携をしながら教育相談や学校相談、研修会を実施しました。学校相談では、地域の学校からの依頼により教育相談コーディネーターや自立活動教諭（作業療法士、理学療法士）が訪問し、授業作りや支援方法について一緒に考えました。

研修会では、今年度は麻生区内の各こども文化センター職員の方 63 名を対象として、麻生支援学校の案内と特別支援教育に関する研修講座を開催しました。

公開講座・学習会

今年度実施した公開講座や学習会について御紹介します。今年度は体育館や会議室を使った集合開催を全面的に再開して、多くの参加者の皆様と共に学ぶ機会をもつことができました。

夏の人権研修会

『卒業したら、どうする？』

講師：一般社団法人木と葉と根　代表理事　今泉　氏

秋の公開講座

『地域と学校の防災について』

講師：川崎市麻生区役所　危機管理担当課長　永石　氏

川崎市健康福祉局総務部　危機管理担当課長　土谷　氏

サタデーセミナー

『障害基礎年金～基本のき～』

講師：川崎市手をむすぶ親の会、卒業生保護者の方２名

秋の公開講座

秋の公開講座（防災グッズ紹介）

≪秋の公開講座の報告≫

ここでは、秋の公開講座『地域と学校の防災』について御報告します。

講師の永石氏は麻生区役所の危機管理担当課長、土谷氏は川崎市健康福祉局総務部の危機管理担当課長として各種防災計画の策定や災害福祉業務に携わり、御活躍されています。

本講座では、【防災に対する心構え、麻生区と川崎市の災害福祉】というテーマで御講演をいただきました。また、あわせて麻生支援学校の防災についても御紹介がありました。

当日は実際に活用できる防災グッズの紹介や備蓄食料の試食会などを交えながら活発に意見交換が行われ、実施後のアンケートでは「どの部分の準備が必要かを具体的にイメージすることができた」「後回しにしてしまいがちな防災への意識が高まった」「防災について家族とも改めて話し合う機会を作っていこうと思った」等の御感想をいただきました。

移行支援担当から

サタデーセミナー報告

12 月 23 日（土）に本校で行われた「教えて！障害年金」では、小学部から高等部までのさまざまな年齢層のお子様の保護者、約 40 名の方が参加されました。

学習会の前半では、川崎市育成会　手をむすぶ親の会で作成した DVD を視聴しました。１本目は大村美保氏（筑波大学人間系障害科学域）の障害基礎年金とは何か？受給するには何が必要か？どのような点を注意すれば良いのか？という基本的な解説がとても分かりやすい内容でした。２本目は、社会保険労務士でもある世田谷区手をつなぐ親の会 代表の渡部伸氏が専門家の視点から様々な疑問に答えていただいている内容でした。

後半は障害基礎年金の申請を行い、すでに受給されている本校の卒業生２名の保護者から今のうちからやっておいた方が良いことや経験を通して感じたことなどについて貴重なお話しをいただきました。

最後に質疑応答の時間をたっぷり取った所、サタデーセミナーということで普段来校できない保護者の参加も多く、活発に質問があり障害基礎年金への関心の高さが窺えました。

【サタデーセミナーで話題になったこと】

・子どもの大変だったエピソードをノートなどに書き留めておく
（申請書類に病歴や日常生活の状況を書くため）

・本人名義の銀行口座を 18 歳（成人）になる前に作っておく（年金の振込用）

・かかりつけ医を探して、障害基礎年金の申請のための診断書を書いてもらえるか確認しておく
（障害基礎年金の申請には医師の診断書がかなり重要です。）

地域交流

お祭り・イベント

麻生支援学校では地域のお祭りやイベントに参加をしています。多くの卒業生や地域の方々が御来場されるなか、高等部のワークアート製品を販売したり、本校の教育活動をお伝えしたりすることができました。

〇第 34 回あさお福祉まつり
令和5年 11 月 12 日（日）
（麻生区役所）
高等部のワークアートの製品や校内実習の製品を販売したり、本校の紹介をしたりしました。

〇第 152 回あさお芸術のまち
ユニヴァーサルあさお
パラアート展
令和5年 11 月 19 日（日）
（新百合 21 ホール）
アートグループの美術作品と音楽グループ「アンサンブルあさお」の活動を動画で紹介しました。21 ホールの1階ロビーに生徒の絵が展示されました。

〇令和5年度　かわさきふれあい作品展　　令和6年2月1日（木）～3月 22 日（金）
（川崎市特別支援教育研究会）　ホームページ上で写真展示をしています。

ボランティア

今年度は児童生徒とかかわる内容のボランティア募集再開の年となり、様々な形で麻生支援学校のボランティア活動に御協力いただきました。お時間をいただき、大変感謝しております。

プールボランティアでは、大学生の方の参加がありました。活動の補助ということで、児童生徒と一緒にプール活動に参加していただきました。児童生徒の方々によりそいながらも、「こんな遊びができるよ」と提案していただき、様々な交流が生まれました。支援学校での活動には初めて参加されたとのことで、「学びがありました。」と感想をいただきました。

☆柿祭では２日間合わせて 13 名の方にご参加いただきました。外部団体の参加や、ステージ発表の復活等、コロナ禍以前の活動が再開した中では、ボランティアの皆様の力が大変ありがたかったです。ステージ発表のお手伝いや児童、生徒の移動の補助、販売の補助等、様々な活動に取り組んでいただきました。

支援学校での子どもたちの様子を見ることができて、「良い経験になりました。」といった感想をいただきました。また、児童生徒も、教員以外の方と交流できる良い経験を得ることができたと感じます。

麻生支援学校では、授業のお手伝いや行事のお手伝い等、様々な形でのボランティアを募集しています。ホームページに情報を載せておりますので、ぜひ御覧ください。引き続きよろしくお願いいたします。

余暇支援のイベント

ウクレレ体験教室で曲に合わせてウクレレ演奏しました！
心地よい音色に包まれました！

余暇支援では学校施設開放で地域の方に体育館や音楽室などを利用していただいたり、ピッカさんによるウクレレ演奏や真田陣太鼓などの体験を行ったりしました。
本校の生徒だけではなく地域の方も参加し、楽しんでもらえる活動を行っています。

真田陣太鼓の体験を行いました。迫力満点の演奏を聴いたり、実際に太鼓を叩いたりして楽しみました。

情報コーナー

福祉機器展

昨年の 11 月 16 日（木） ～ 17 日（金）の「☆柿祭」の期間中、自立活動室にて「福祉機器展」を開催しました。今回は横浜市総合リハビリテーションセンター地域リハビリテーション部の御協力を得て、東京、埼玉、長野などから、福祉機器を取り扱う７社の企業の方々に本校にお越しいただきました。

実際に展示された品々には、目で見るだけでパソコンを操作できる視線入力装置、センサーカメラで動きをとらえて身体を大きく動かすゲームができる機器、小さな動きでも感知してタブレット端末を操作できるスイッチやアプリの数々、機能性とデザイン性を両立した靴型装具、自宅の階段を座った状態で昇り降りできる段差解消機、車いすに人力車のような持ち手を付けて不整地でも軽い力で移動しやすくする補助装置、ユニットバスにも後から取り付け可能な浴室リフト、簡易の浴槽や入浴用具、室内で飛び跳ねても衝撃と音を吸収できる防音マット、そして日々の生活を少し楽に豊かにできる自助具の数々の展示がありました。会場の広さの制約がありましたが、肢体不自由教育部門だけでなく、知的障害教育部門の児童・生徒や保護者の方々にもお越しいただけるよう、展示品の選定に心がけました。

普段、気軽に試すことができない福祉機器ですが、今回の福祉機器展を通して来場者の方々に実際に体験していただけたり、児童・生徒の学びにつながる場面があったりと充実した２日間となりました。

使っていますか？障がい者用 IC カード（Suica、PASMO）

昨年の３月から、障がい者割引が適用されるかたにも、よりシームレスかつ快適に、関東圏などで「Suica」・「PASMO」を利用ができるように「障がい者用 IC カード（Suica、PASMO）」のサービスが開始されました。専用の IC カードを作成・使用することで、手帳を提示することなく、IC カードをタッチするだけで割引の適用ができることがメリットです（手帳の携行は必要）。

サービス対象は「第１種身体障害者または第１種知的障害者の大人のお客さま、障がい者本人を介護する任意の１名のお客さま」とされており、小児の設定はありません。１種手帳であっても小学生は作成できません。また、本人用と介護者用は必ずセットで作成します。

この IC カードは基本的に、本人と介護者が同一行程で乗車する場合に利用できるものです。ただし、取扱い内容は事業所毎に決まっており、麻生支援学校近隣の交通機関である「川崎市バス、横浜市営地下鉄・バス、東急バス、小田急バス」では、本人用 IC カードでの単独利用で割引が適用できます。

詳しい申し込み方法や利用条件は、事業所の HP などでご確認ください。